

# 15歳から40年間、働いてきました。 今は、母子二人暮らし。 将来の生活に備えて決心したこと。

齋藤博文さん(久留米市在住)は重度の知的障害を持ちながら、  
15歳から働き続けておられます。  
父は3年前に亡くなり、2年後には博文さんは還暦。  
自宅と一緒に暮らす母は米寿を迎えます。

「これからも自宅で暮らし続けたい」と願うお二人にお話を伺いました。



(株)サンワドライ工場にて、マットを仕上げる作業を担当。数えきれないマットを洗ってきたその手は、まさに職人の手です。



時、心開いて話せる人がいてくれたら、きつとこの子の力になると思います。



母と一緒に。

大きなマットを洗う仕事は楽しいです。職場には優しくてよか人が多いし、後輩もいます。あと2年で定年だけけど仕事は続けたいです。そうせんと体がなまるから。最近では疲れるから、風呂にゆっくり入って夜8時には寝ます。もし母がいなくなったら、この家で一人で暮らせない。今まで一度も夜一人でいたことがないから。でも遠い所に移ったら仕事に行けなくなるからそれは困る。近くで仲間達と暮らすかな。誰かと一緒にいたいんです。近所のみならず、町内の餅つきや空き缶拾い、祭りに出るのは楽しいです。ソフトパレーに行った時に、僕は文化センターで友だちと一緒にご飯を食べたいと思った。そんな友だちがほしいです。食事と一緒にこうって、職場の後輩を誘ってみたいんです。

齋藤 博文

友だちがもっとほしい。  
職場の後輩を誘ってみたい。

息子に心開いて  
話せる人がいてくれたら

齋藤 母

中学校卒業後15歳から先輩が働いていた木工所に縁があり、博文を行かせることに決めました。朝起きたくないと電柱にしがみついて泣く時は、向かいの八百屋のご夫婦が励ましてくれることも度々。木工所で、の怪我が原因で自宅療養しましたが、再び決意し、株式会社サンワドライ(久留米市)に入社。昨年35年勤務で表彰されました。雨の日も風の日も自転車で通い続けています。私達夫婦は、人より時間はかかってもらい返し教えることで、息子に生き抜く力をつけさせたい、たくさんの経験を積みせたいと考えましたので、夫は、体が小さかった息子を「丈夫な子に」と、週末毎、自転車まで通って行っていました。

## ● お話を伺って一

### 母の看取りもきつと…。

真摯に努力を重ねてくれた齋藤さん親子。身につけた力を基に、将来の生活に備えて親子で少しずつ準備をしていこうと決心されました。

- ① 兄弟も含め家族で話し合いを重ねていくこと。
  - ② 家以外の場所や家族以外の人達と過ごす体験を積んでおくこと。
- 博文さんの願いは、一人で、ではなく誰かと暮らすこと、今後何仕事も続けることです。近所の皆さんや兄弟、長年親しんできた育成会の仲間達。博文さんの周りにはたくさんのつながりがあります。どうすれば博文さんの望む暮らしを続けることができるのか、みんなで考え、支えていけたらと思います。

## 特集インタビュー

### 西鉄バス久留米株式会社

#### 誰もが住みやすい街、住みやすい地域にしていきたい

「車いすユーザーが街に出ていかないと、本当のバリアフリーは進まない」  
この思いで当事者分科会の笠恒久さんは、日頃から、車いすで公共交通機関を利用していきたく。今回、西鉄バス久留米株式会社(京町支社)を訪問し、「バリアフリーの取り組み」について、坂田幸司支社長にお話を伺いました。

南部障害者基幹相談支援センター 松下山 航

### 車いすで乗降 乗客誰もが手伝えること

**笠** 西鉄バスさんは街に出る時に度々利用します。乗降時は、乗務員さんが降りてきて階段の下からスロープを手で引っぱり出して、それから車いすを押ししてもらって乗るんですけど。

**支社長** スロープ付きバスが、久留米で比較的多く導入されたのは、ここ4、5年です。2台はノンステップバスで階段が無くて床面を低くしており、スロープ自体も緩やかに出るようになってます。以前は、車いすの方は介助者がおられない場合、乗務員一人では抱えることができないので、介助者なしではご乗車いただけませんでした。

**松山** スロープのないバスが来た時は？

**支社長** ご乗車できません。抱えて乗せると乗務員や当事者の方が怪我をする場合があるからです。

**笠** 乗務員さんが最近では言わずすけん。「これスロープ付いてないけん、ごめんね。次のスロープ付きのバスが来るまで待つってね」って。

**松山** この前笠さんがバスに乗る時に、祐誠高校の生徒さんが「手伝います！」って言って、「わっせ！わっせ！」って言って押してくれました。

**支社長** 乗務員が車いすを押ししている時、前から引っぱっていただいても助かります。

**松山** そういって、乗っている人がしていいですね。「お手伝いしましょうか」って。

**支社長** それは大丈夫です。

**笠** 乗っている人に手伝わってもらったことは、何回もあるよ。特に昔はスロープなかったけんね。

**支社長** 乗っている人に手伝わってもらったことは、何回もあるよ。特に昔はスロープなかったけんね。

### 住みやすい街地域に

**笠** 乗っているのも、車いすの固定でベルトを取り付けるのにも時間がかかるんですよ。5分位かかる時もある。

**支社長** 乗車中の安全のためには、車いすの固定が必要ですよ。また、この席の確保のためには、お客様に他の席に移っていただく協力も必要です。

**笠** 乗務員さんが移ってと声かけしよる時、納得していないお客さんもあるみたいで。結局僕を見たら、「あ、車いすならしょうがないか」って。

**支社長** 乗務員は月1回の業務常会で、スロープの動作やベルト固定の確認などの研修を重ねながら、一生懸命に対応しています。当事者の皆様に伝わっていない点も多々あるかとは思っています。

**笠** 僕個人は、「ご苦勞様で、どうか挨拶して降りたりする」ので、案内、乗務員さんから「気を付けて行ってくださいね」とか言ってもらえるので、良い印象はたくさんあるんですけど。

**松山** バスや電車での車いす利用が普通の風景になれば、誰もがそれに慣れていき、周りもサポートの仕方が分かるようになるのだと思います。

**支社長** バスは、車いすや体の不自由なお客様、ベビーカーご利用のお客様など様々な方が利用されます。私達は、誰もが住みやすい街、住みやすい地域になれば一番だと思っています。

**笠・松山** 今日は有難うございました。



笠さん(左)車いす用の席にてベルトで車いすを固定しています



西鉄久留米(スセンター)0番-7番のりばスロープが出しやすいうちに、スペースが確保され、車いす乗客の乗降ができます。

障害者割引  
西鉄[nimoca]の  
登録と更新を  
お忘れなく!

割引の登録は、西鉄久留米駅内の定期券発売所、各営業所です。

**nimoca**

西鉄バス久留米(株)京町支社坂田幸司支社長、泉田幸穂主任(後列)にご協力いただきました。